

こういつた勉学の態度がその後の人生に影響したのは当然でした。趣味にも没頭しながら一流の情報処理エンジニアを目指し努力しましたが、果たしてどうであったでしょうか。

飯能を通る度に新たな発見があります。広渡寺が幕末の飯能戦争で焼けたことを知ったのは還暦を迎える頃で、能仁寺に有名な庭園があることを知ったのは数年前のことでした。天覧山から多峯主へのハイキングコースはお気に入りでもあります。

さて、定年後は埼玉の「和算」を勉強中で、飯能では二人の人物を調べました。一人は虎秀出身の千葉歳胤（一七一三〜八九）です。歳胤は天文暦学者ですが優れた和算家でもありました。歳胤の著書は総計四千頁に及ぶ史料が遺されていて、中には円周率を求める為に大変な計算を行ったものもあります。もう一人は原市場の石井弥四郎（一八〇五〜七二）です。弥四郎が文政13年に「子の権現」に算額を奉納したことは昔の書物に載っています。解説しましたがその問題はいわゆる穿去問題で高尚なものです。飯能には知られざる歴史上の人物がいます。二人のことは本に著し、高校の図書室にも寄贈させて頂きました。

「飯能」への思いは増々強くなります。

羽村市在住

### 今の自分に感謝

21回卒 中里 忠夫



飯能高校を卒業して47年経ちました。自分の人生は24歳の時に急

変しました。突然の父親の61歳での交通事故死でした。

自由に好き勝手な時間を過ごしていた自分。突然母親と二人になつてしまった現実。長男である自分に一気に責任が負いかぶさってきました。今まで生きてきた中で一番の落ち込みでした。とは言っても落ち込んでいた時間は無かった。勤務していた会社は、海外への転勤、長期の出張と動きはじめていた。自分にも要請がいつ来るかわからない状態であった。自分は大変悩みました。母親を一人残して外国に行く事などとても出来ない。会社の上司との相談は何度も繰り返した。そして結論は大好きだった会社を円満退社する事になりました。

そして昭和51年、偶然にも自分の先輩に声を掛けて頂き、地元飯能の会社に勤める事となりました。今までと180度違う職、最初1年は無我夢中で働きました。先輩の優しさに助けられ何とか勤



### 出会いと感謝

26回卒 鈴木 良一



この同窓会会報の原稿依頼のお話を頂いたとき、同窓会？会報？恥ずかしながらその存在を知りませんでした。今回せっかくの機会を頂きましたので母校のこと当時のことをふり返ってみたいと思いました。

「光陰矢のごとし」と言います。卒業から42年も経っています。当時を思い出すとき、やはり野球の練習に明け暮れた日々が心に残っています。ちょうど今、夏の県予選が始まり球児の暑い夏のドラマが連日新聞を賑わせています。私たちの頃は、埼玉県は山梨県との代表決定戦に勝利しないと甲子園には行けませんでしたが、私たちが3年の時は55回の記念大会。県で優勝すると甲子園、という年でした。

残念ながらその夢はあと一歩というところで叶いませんでしたが、高校野球を通して沢山のことを学び、多くの方々に支えられていたことなどを改めて感じました。特に当時の野球部監督山田正先生には、大変お世話になりました。現在、教育に携わる仕事に赴くことができたのも先生のご指導のお陰であり感謝しております。

飯能市在住

また、社会に出てみると、野球部だったということではある幅が広がり仲間も増えました。それは、野球に限ったことではありませんが、一つのことをやり抜いた自分があり、多くの人の出会いがあったからだと感じています。「縁尋機妙」と言う言葉がありますが、よい人との出会いがさらに多くの人とのよい出会いに繋がる。正に色々な人との出会いによって支えられている人生であると感じています。

野球部は毎年「OB会」の集まりがあり、現役の応援、先輩・後輩の親睦を深めています。集まる度に伝統ある飯能高校の素晴らしい出会いに感謝をしています。

現在は、小学校に務め、最後の年を迎えています。子ども達へも、飯能高校で学んだ出会いの大切さや、感謝の心を伝えていきたいと思っています。

また、これを機会に母校飯能高校に今まで以上に目を向け、卒業生の一人として陰ながら応援をしていきたいと思っています。

飯能市在住

